

AKAI[®]
PROFESSIONAL

FORCE

はじめに / セットアップ / 機能 / チュートリアル

はじめに

Force をお買い上げいただきありがとうございます。私たち Akai Professional は、音楽がどれほどお客様にとって重要かを考えた上で、「最高のパフォーマンスにする」ということを念頭に、製品を開発しております。私たち Akai Professional は、音楽がどれほどお客様にとって重要かを考えた上で、「最高のパフォーマンスにする」ということを念頭に、製品を開発しております。

サポート

本製品の最新情報（システム要件や互換情報など）は、AKAI Professional の Web サイト akai-pro.jp/ をご確認ください。また、修理や使用方法などのお問い合わせは、カスタマーサポート akai-pro.jp/support/ にご連絡ください。

重要: akai-pro.jp で

このユーザーガイドについて

このマニュアルは Force の操作を知るためのものです。一貫性を持たせるために全体を通して用語は Force のパラメーター名に基づいています。また、特定の意味のあるトピックを示すために特定のフォーマットを使用しました。

重要/注/ヒント：特定のトピックに関する重要な情報または役に立つ情報です。

- 例：
- Play ボタンを押します。
 - ノブ 4 を回します。
 - Mute アイコンをタップします。
 - ヴェロシティレンジ 0~127
 - Sample Play セレクターを One Shot に設定します。
 - BPM をタップし、数字キーパッドで目的のテンポ、120 を入力します。

青い太字の斜体文字は他の関連する項目を参照しています。そのテキストをクリックすると関連するセクションに移動します。

- 例：
- 先に進む前に重要事項をお読みください。
 - クリップのローンチに関する詳細はチュートリアル > クリップのローンチを参照してください。
 - SEND エフェクトの使用に関しては一般機能 > エフェクト > SEND/リターンエフェクトを参照してください。

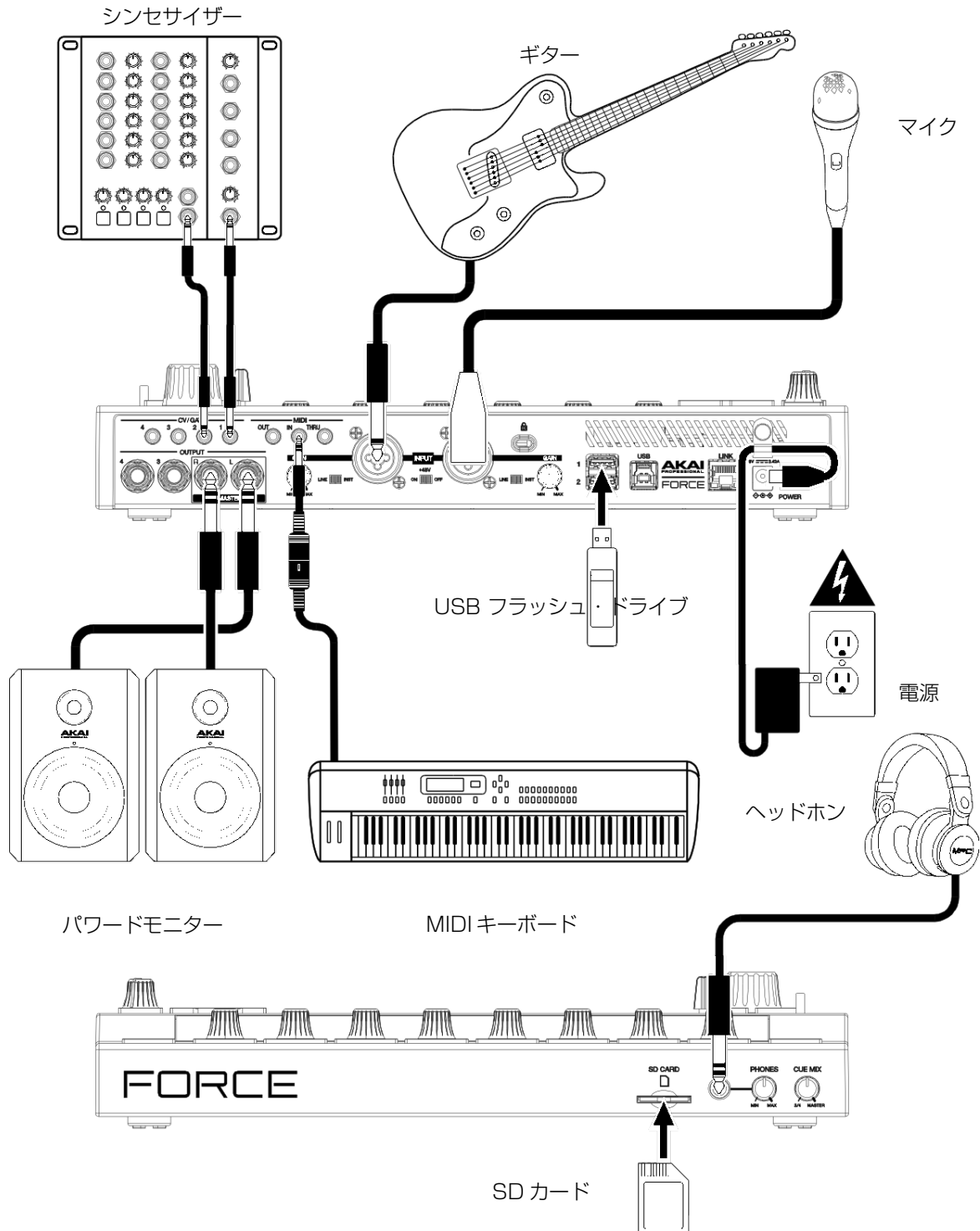
注意事項

Force をご使用になる前にセーフティマニュアルおよび保証書をお読みください。

Force の起動時および外部機器の接続前にはすべてのデバイスのスイッチをオフにしてください。

セットアップ

Force のセットアップ例です。※同梱物リストにないものは別売りです。



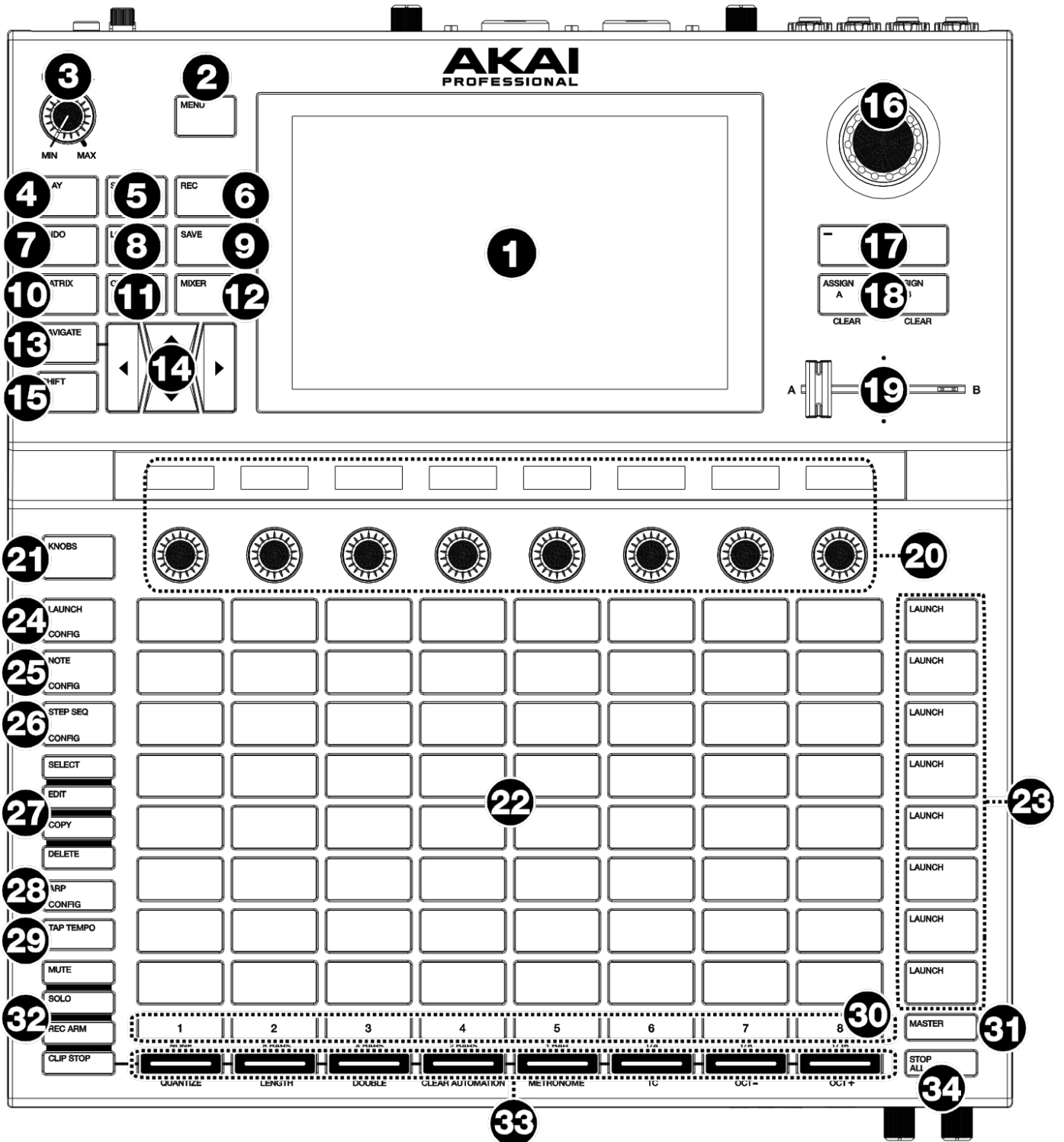
使用する前にタッチスクリーンに貼ってある保護フィルムを剥がしてください。

注：akaipro.com で Force ファームウェアおよびドライバーのアップデートを確認することを強くお勧めします。

特徴

この章では Force の特徴と機能を説明します。

トップパネル



1. ディスプレイ：このフルカラーマルチタッチディスプレイは、FORCE の現在の操作に関連する情報を表示します。ディスプレイにタッチして（またはハードウェア・コントロールを使用して）、FORCE のインターフェイスを操作できます。基本的な機能の使用方法は、[ディスプレイ]を参照してください。
2. MENU：メニューが開きます。メニュー画面でオプションをタップすると、そのモード、表示などを入力できます。
3. マスターボリューム：マスターL / R 出力の音量を調整します。
4. PLAY：再生します。
5. STOP：再生を停止するときに押します。ダブル押しですべてのサウンドを停止します。
6. RECORD：レコーディングの開始と停止を行います。
Shift とこのボタンを同時に押すとレコード設定ウィンドウが開きます。
7. Undo：最後の操作を取り消します。
Shift と同時に押すと元の状態に戻ります（リドゥ）。
8. LOAD：プロジェクト、クリップなどを読み込み可能なデータを表示します。
9. SAVE：プロジェクト、サンプル、トラックを保存します。
10. MATRIX：クリップの 8x8 ビューでプロジェクトの概要を示す Matrix View が開きます。
11. CLIP：クリップビューが開き、1 つのクリップの詳細が表示されます。
シフトと同時に押すとトラック編集ビューが開き、ドラムキット、プラグイン、MIDI、CV トラックのパラメータの編集ができます。
12. MIXER：ミキサービューが開き、各トラックの音量、パン、センド・コントロールを操作できます。
ドラムトラック使用時に Shift と同時押しでパッドミキサービューが開きます。ここではパッドのボリューム、パン、センドのコントロールを行います。
13. NAVIGATE：プロジェクト全体の概要を表示するナビゲート・ビューが開きます。セクションをタップすると、マトリックスビューがそのセクションに直接移動します。またカーソルでマトリックスビューを移動します。
Shift と同時押しで XYFX ビューを開きます。
14. カーソル：マトリックス・ビューとパッドを一度に 1 行または 1 列ずつ移動します。
SHIFT キーを押しながらこのボタンを押すと、一度に 8 行または列ずつ移動できます。
15. Shift：このボタンを押しながら、他のボタンを押すことで、サブ機能が使用できます(ボタンの種類とモードによります)。
16. データダイヤル：このダイヤルを回して使用可能なメニューオプションをスクロールするか、ディスプレイの選択したフィールドのパラメータ値を調整します。ダイヤルを押すと Enter ボタンとしても機能します。
Shift を押しながらこのダイヤルを回すとパラメータを細かく調節できます。
17. - / +：ディスプレイで選択したフィールドの値を増減します。
18. ASSIGN A / ASSIGN B：Track Assign ボタンとこのいずれかのボタンを同時に押して、トラックをクロスフェーダーの A または B グループに割り当てます。
SHIFT キーを押しながらこれらのボタンのいずれかを押すと、クロスフェーダーの A / B の割り当てが解除されます。
19. クロスフェーダー：A または B グループに割り当てられたクリップをミックスします。
20. 設定可能なノブ：トラック・パン、トラック・センドレベル、その他のユーザーの設定可能なパラメータをコントロールします。Knobs ボタンを使って、アクティブなノブのバンクまたはモードを変更します（後述）。各ノブの上の表示ストリップは、操作しているパラメータ、現在の値、設定を示します。
21. KNOBS ボタン：このボタンを押すと現在アクティブなモードのノブのバンクを最大 2 つまで設定できます。ノブの上にある表示ストリップは、現在選択されているパラメータを示します。
このボタンを押し続けると、ノブのコントロールモードのプリセットを選択できます。
Shift キーを押しながらこのボタンを押すと、ノブの割り当てを編集する Knobs Mode が開きます。
22. クリップ起動パッド：この 8x8 の速度感知パッドを使用して、アクティブモードに応じてクリップを起動し、ノートを演奏します。
23. LAUNCH（シーン起動）ボタン：これらのボタンの 1 つを押すと、左にあるクリップの行で表される、対応するシーンを起動できます。

ヒント：パッドモードにいるとき、ボタンを押し続けることにより一時的に他のモードに切り替えることができます。ボタンを離すと前のモードに戻ります。

Edit ボタンとこれらのボタンの 1 つを同時押しで新しい行を挿入したり、現在再生中のクリップを新しいシーンとして記憶したり、行を消去したりすることができます。

24.LAUNCH / CONFIG : クリップ起動パッドが LAUNCH モードに設定されます。LAUNCH モードでは、各パッドは 1 つのクリップ・スロットを表します。8 つの列は 8 つのトラックを表し、8 つの行は 5 つのシーンを表します。クリップの行の右側にある LAUNCH ボタンを押すと、シーン全体を起動できます。

SHIFT キーを押しながらこのボタンを押して、LAUNCH モードの設定を行います。

25.NOTE / CONFIG : クリップ起動パッドが NOTE モードに設定されます。NOTE モードでは、パッドを使って構成可能なスケールの MIDI ノートを演奏することができます。

Note モード内で Keygroup、Plugin、MIDI、CV トラックを使用中にこのボタンを押し続けると、スケールやコード、進行などのプレイモードを選ぶことができます。Note モード内で Drum トラックを使用中にはボタン長押しでノートリピート用の音符を何分音符にするかを選択できます。

SHIFT キーを押しながらこのボタンを押すと、スケールやルート・ノートなどの NOTE モード設定が構成されます。このボタンを押し続けると、モードをすぐに選択できます。

26.STEP SEQ / CONFIG : このボタンで Step Sequencer 使用時に 3 種類のパッドビューを切り替えます。

ステップシーケンサーモードのときにこのボタンを押し続けると、ステップシーケンサービューをすばやく選択したり、[Step Sequence] ページを選択したり、ステップサイズを変更したりできます。

SHIFT キーを押しながらこのボタンを押して、ステップシーケンサーの設定を行います。

27.EDIT ボタン : 以下のいずれかのボタンを押し続けると、クリップまたはトラックを編集できます。

- SELECT(選択) : このボタンを押し続けると、現在選択しているクリップが表示されます。保持している間、別のクリップ起動パッドをタップして別のクリップを選択します。このボタンは、ドラムキット内のドラムパッドを選択したり、ステップシーケンサーでノートを鳴らさずに選択するためにも使用できます。

- EDIT(編集) : このボタンを押したままにして、クリップ起動パッドまたはトラック選択ボタンをタップして、クリップまたはトラックを編集します。

押し続けるといずれかの Scene Launch ボタンを押すと Edit Row ウィンドウが開き、Matrix の行の追加や削除ができます。

- COPY(コピー) : クリップまたはトラックをコピーするには、このボタンを押し続けます。押しながら、コピーするクリップ/トラックの、クリップ起動パッド/トラック選択ボタンをタップし、新しいパッド/ボタンをタップしてコピーします。

- DELETE(削除) : このボタンを押したままにして、クリップ起動パッドまたはトラック選択ボタンをタップして削除します。

28.ARP / CONFIG : 現在のテンポとタイムディビジョンの設定に基づいたレートのアルペジエーターが有効または無効になります。

SHIFT とこのボタンを押して、アルペジエーターの設定を行います。

29.TAP TEMPO : このボタンを好きなテンポでタップし、新しいテンポを入力します。

Shift と同時押し Tempo ウィンドウが開き、新しいテンポが入力できます。

30.トラック・セレクター : これらのボタンの 1 つを押すと、トラックのすぐ上にあるクリップの列で表示されるトラックが選択されます。右端のボタン(Master と記されています)で Master トラックを選択します。

SHIFT キーを押したままこれらのボタンのいずれかを押し、グローバル・クオンタイズの設定を選択します (None、8 Bars、4 Bars、2 Bars、1 Bar、1/4、1/8、1/16)。

31.Master : Master と Return チャンネルを表示します。

32.アサインモード・ボタン : 以下のいずれかのボタンを押して、トラックアサイン・ボタンの機能を設定します。

- MUTE : トラックがミュートされます。
- SOLO : トラックをソロにします。
- REC ARM : トラックを録音します。
- クリップ停止 : トラック内で再生中のクリップが停止します。

33.トラックアサイン・ボタン : これらのボタンのいずれかを押し、クリップの列で表示されるトラックに設定されます。アサインモード・ボタンを使用してアサイン機能を設定します。

SHIFT キーを押しながらこれらのボタンの 1 つを押すと、ボタンの下に印刷されたサブ機能にアクセスできます。

34.STOP ALL : すべてのクリップが終了したら停止します。

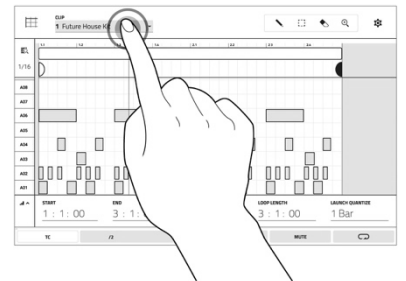
ヒント : Shift キーを押しながら Mute または Solo を押すと、ミキサー設定ウィンドウが開き、ソロボタンとクロスフェーダーの動作を設定できます。

ディスプレイ

FORCE ディスプレイの一般的な使用方法は次のとおりです。

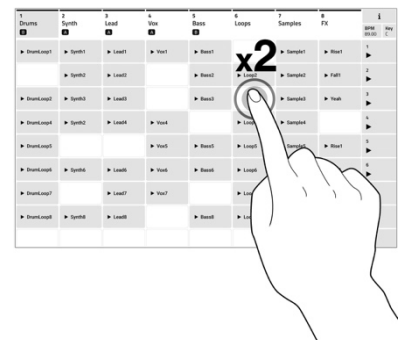
ボタンまたはオプションをタップして選択します。データ・ダイヤルまたは - / + ボタンを使用して、設定または値を変更します。

Matrix ビューで空ではないクリップスロットをアップしてクリップをローンチします。

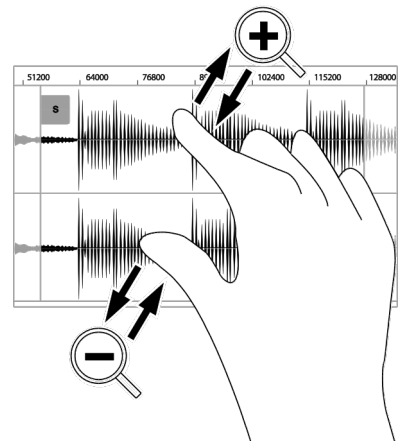


コントロールをダブルタップすると、編集オプションにアクセスできます。場合によっては、データ・ダイヤルまたは - / + ボタンの代わりに、値を入力するために使用できるテンキー・パッドが表示されます。ディスプレイの左上部分をタップすると、前の画面に戻ります。

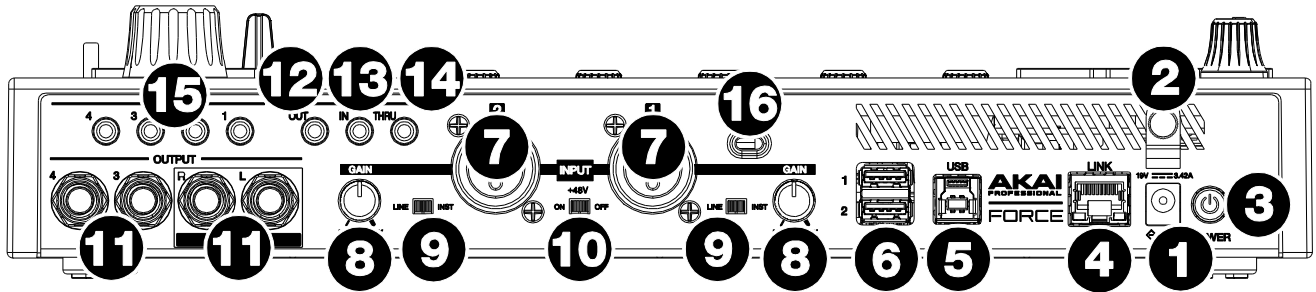
マトリックス・ビューで、トラック内の空のクリップ・スロットをダブルタップして新しいクリップを作成します。



例えば波形の一部など、2本の指を同時に広げて画面を拡大できます。ズームアウトするには2本の指を狭めます。

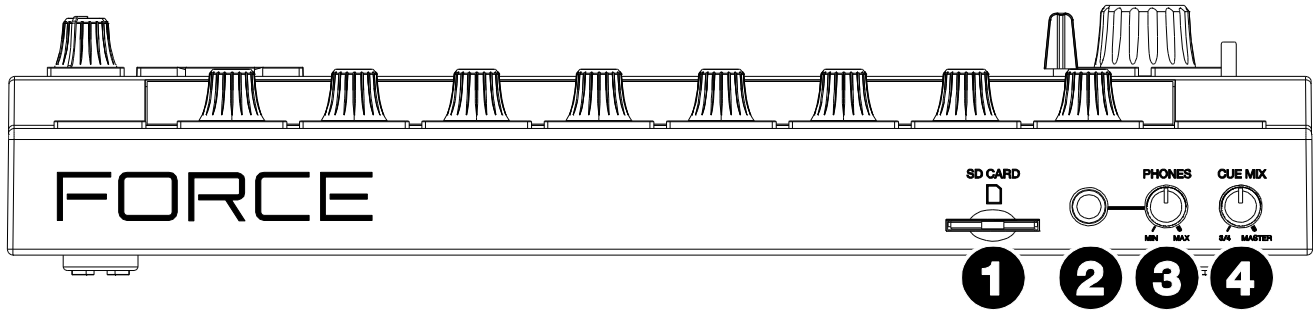


リアパネル



1. 電源入力: 同梱の電源アダプタ(19 V、3.42 A、センター・ポジティブ)を接続し、電源コンセントに接続します。
2. 電源アダプタの留め具: 電源プラグを抜かないように、電源アダプタケーブルをこの留め具に固定します。
3. 電源スイッチ: FORCE の電源をオンまたはオフにします。
4. LINK: このポートに標準イーサネット・ケーブルを接続して、Force との Ableton Link およびその他の互換デバイスを使用します。詳しくは操作 > 一般昨日 > メニュー > 設定 > 同期を参照してください。
5. USB ポート-B: 付属の USB ケーブルを使用して、コンピュータの USB ポートに接続します。
6. USB ポート-A: USB フラッシュ・ドライブをこれらの USB ポートに接続して、Force を使用して直接ファイルにアクセスします。
7. 入力 1/2 (XLR または 1/4" / 6.35 mm): 標準の XLR または 1/4" (6.35 mm) TRS ケーブルを使用して、これらの入力をオーディオソース (マイク、ミキサー、シンセサイザーなど) に接続します。1/4" ケーブルを使用する場合、マイク・プリアンプは回路から取り外され、Line / Inst スイッチを使用してインピーダンスを設定することができます。
ゲイン・ノブを回してそれぞれの入力レベルを設定します。
8. GAIN: リア・パネルの入力 1/2 からの入力信号のゲインを調整します。このノブをより高いレベルに設定すると信号が歪む可能性がありますので注意してください。
9. ライン/インストゥルメント: 1/4 インチの接続を使用する場合は、ラインレベルまたはインストゥルメント・レベルの音源のいずれかを受け入れるように入力 1/2 を設定します。
10. ファンタム電源 (+ 48V): XLR 接続を使用しているとき、入力 1/2 のファンタム電源をオン/オフします。両方の入力に+ 48V のファンタム電源が供給されます。ダイナミックマイク及びリボンマイクを使用する際はファンタム電源はオフにします。ご使用されるコンデンサーマイクにファンタム電源が必要かどうかは、使用されるコンデンサーマイクのマニュアルでご確認ください。
11. 出力 (1/4" / 6.35 mm): 標準 1/4 インチ (6.35 mm) TRS ケーブルを使用して、これらの出力をモニター、ミキサーなどに接続します。マスター-L / R 出力は、出力 1、2 と同じです。
12. MIDI OUT: 互換性のある 1/8" MIDI デバイスをこの出力に接続するか、付属の 1/8" MIDI アダプタを使用して、この入力から外部 MIDI 機器 (シンセサイザー、ドラムマシンなど) の MIDI 出力に標準の 5 ピン MIDI ケーブルを接続します。
13. MIDI IN: 互換性のある 1/8" MIDI デバイスをこの入力に接続するか、付属の 1/8" MIDI アダプタを使用して、この入力から外部 MIDI 機器 (シンセサイザー、ドラムマシンなど) の MIDI 出力に標準の 5 ピン MIDI ケーブルを接続します。
14. MIDI THRU: 互換性のある 1/8" MIDI デバイスをこのスルーポートに接続するか、付属の 1/8" -to- MIDI アダプタを使用して、標準の 5 ピン MIDI ケーブルをこの入力から外部 MIDI 機器 (シンセサイザー、ドラムマシンなど) の MIDI 出力に接続します。MIDI 入力ポートからの MIDI 信号は、このポートに渡され出力されます。
15. CV / ゲートアウト: 標準の 1/8 インチ (3.5 mm) TS ケーブルを使用して、これらの出力をオプションのモジュラー・デバイスに接続します。Force は、この接続を介して制御電圧 (CV) および/または GATE 信号を出力します。
16. Kensington® Lock スロット: Force をテーブルや他の面に固定することができます。

フロントパネル



1. SD カード・スロット：標準の SD / SDHC カードをこのスロットに挿入し、Force を使用して直接ファイルにアクセスします。
2. PHONES(1/4 インチ/ 6.35mm)：標準の 1/4 インチ(6.35mm)ステレオ・ヘッドフォンをこの出力に接続します。
3. PHONES ボリューム：ヘッドフォン出力の音量を調節できます。
4. CUE MIX：ヘッドフォンのマスター信号と 3/4 信号のバランスを調整します。・ MASTER—マスター出力から送られる信号。・ 3/4—出力 3/4 から送られる信号。

チュートリアル

このセクションでは、Force の基本的な使い方を説明します。Force 内蔵のデモプロジェクトの 1 つを使用して、もっとも大切な概念といくつかの機能を説明します。この章を最大限に活用するために、説明されている各ステップを実際にやってみてください。

操作を始める

付属の電源アダプタを使用して Force ハードウェアを電源に接続し、電源を入れます。

まず、Force の電源をオンにして下さい。デモプロジェクトを選択し、画面下部の空のプロジェクトを選択して空のテンプレートを読み込む、またはユーザー・テンプレートを選擇して保存したカスタム・テンプレートを読み込むことができます。

このマニュアルではデモプロジェクトの Deep House - Colors をタップしてロードします。

クリップの起動



デモをロードすると Force は自動的に Matrix Mode になります。これにより、プロジェクトの概要が表示されクリップローンチパッドの 8x8 レイアウトを反映します。カーソルボタンでマトリックスの現在の様子を 1 行あるいは 1 列ずつ移動します。

Matrix Mode における各列はトラックを意味しています。トラックにはオーディオサンプル、ドラムキット、プラグイン音源などを割り当てられます。Kick Loop、Top Loop、Fill などのトラックがディスプレイに表示されます。

各トラックはクリップと呼ばれるオーディオや MIDI の短いシーケンスで構成されています。トラック内のクリップは 1 度に 1 つだけ再生できます。いくつかのクリップを試してどのように動作するかを確認してみましょう。

Launch ボタンを押してクリップ起動パッドが Launch Mode になっていることを確認します。このモードでは各パッドはトラック内にある 1 つのクリップを表しています。点灯しているパッドはディスプレイに表示されているクリップです。暗くなっているパッドは空のクリップです。



Track 8 の最初のクリップをタップします。ドラムが演奏されます。このクリップ起動パッドは緑色にゆっくり点滅し、現在アクティブであることを表示します。ディスプレイではクリップの再生ヘッドの位置が表示されます。

Launch モードにおいて、現在再生中のパッドの下にあるクリップ起動パッドを押します。2 番目のクリップは次の小節の後に再生されます。

操作 > 一般機能 > パッド・モード > ローンチモードを参照してください。

クリップは同じトラック内にある別のクリップが開始されるまで、または全体もしくはクリップの再生を停止するまで連続再生されます。

Stop ボタンで再生を止めます。

クリップを停止するには Clip Stop ボタンを押すと Track Assign ボタンが停止モードになります。そのあと、クリップが再生中のトラックの Track Assign ボタンを押します。Stop All Clips ボタンを押してすべてのトラックのクリップを停止することもできます。

トラック内のクリップを起動する他に、同じ行にあるトラックをまたいで複数のクリップを起動することもできます。クリップの各行はシーンと呼ばれ、曲の異なる部分をアレンジするときに使います。

Scene Launch ボタンの 1 番上を押してクリップの最初の行をスタートさせます。そして他のシーンも順番に鳴らしてみましょ。

1 つのシーンが再生されている間に、他の行のクリップを起動していろいろなバリエーションを試してください。



Force のクロスフェーダーにトラックを割り当てることもできます。これにより複数のトラックにあるクリップをシームレスに切り替えることができます。

1. Assign A ボタンを押したままにして、Track 1 - Kick Loop の Track Assign ボタンを押します。画面上部にあるトラック名に A アイコンが表示されます。
2. 次に Assign B ボタンを押したままにして、Track 4 - Hat Fill の Track Assign ボタンを押します。画面上部にあるトラック名に B アイコンが表示されます。
3. 3 番目のシーンを起動してから、クロスフェーダーを使用してクリップを A 側から B 側に移して戻します。

クロスフェーダーの割り当てを解除するには、Shift を押したまま Assign A あるいは Assign B ボタンを押します。

クロスフェーダーのスローププロファイルを編集するには、ミキサー内で Setting をタップしてミキサー設定ウィンドウを開くか、Shift を押しながら Mute または Solo を押します。[Linear]、[Exponential]または[Logarithmic]を選択します。